日本認知心理学会第 12 回大会

The 12th Annual Convention of Japanese Society for Cognitive Psychology

主　催	日本認知心理学会
開催校	東北大学（文学研究科・情報科学研究科）
後　援	東北大学災害科学国際研究所
協賛・助成	仙台観光コンベンション協会

大会準備委員会

実行委員長	行場次朗	（東北大学）
実行副委員長	岩崎祥一	（東北大学）
	邑本俊亮	（東北大学）
実行委員	加藤健二	（東北学院大学）
	櫻井研三	（東北学院大学）
	真覚　健	（宮城大学）
	二瀬由理	（東北工業大学）
プログラム委員長	大橋智樹	（宮城学院女子大学）
プログラム委員	池田和浩	（尚絅学院大学）
	渡邊兼行	（仙台白百合女子大学）
	本多明生	（山梨英和大学）
	柴田　寛	（東北文化学園大学）
	秋元頼孝	（理化学研究所脳科学総合研究センター）
	大谷智子	（東北大学電気通信研究所）
運営委員長	上原俊介	（東北大学）
運営委員	竹島康博	（東北大学）
	立花　良	（東北大学）
	齋藤五大	（東北大学）
	朝岡　陸	（東北大学）
	海老原聡子	（東北大学）

ご挨拶

日本認知心理学会第 12 回大会は，2014 年 6 月 28 日（土）と 29 日（日）に仙台国際センターで開催いたします。梅雨入りが比較的遅い仙台では，この時期，杜の都らしい瑞々しい緑を楽しむことができる日が多いです。近郊には震災からの復興も思うように進んでいない様子も広がっていますが，皆様のご支援に感謝するとともに，東北で初めての開催となる大会に是非，たくさんの方々にご参加をお願いしたいと存じます。

今回の大会が基調としているのは，「互恵性を重視する認知心理学」です。基礎と応用，科学と倫理，社会発展と防災，高齢者と若年者，男性と女性，障碍者と健常者，心と身体など，シビアな二項対立がより際立ってきた現代のように見えますが，近年の認知心理学，特に日本認知心理学会は，安易な二分法に陥らず，両項が相互作用することにより創発効果が生まれ，互恵的関係によって支えられていることを様々な研究会や学会活動を通して浮き彫りにしてきたと思います。

このような姿勢にそって，特別講演や社会連携シンポジウム，特別セミナー，社会連携発表などのプログラムが意欲的に編成されました。認知心理学と社会の互恵性をますます増大させることができるように，また，なにより参加者の皆様が，東北で開催される大会との互恵を十分に感じられるよう努力いたします。イブニング・アトラクションも用意いたしましたので，どうぞお楽しみください。

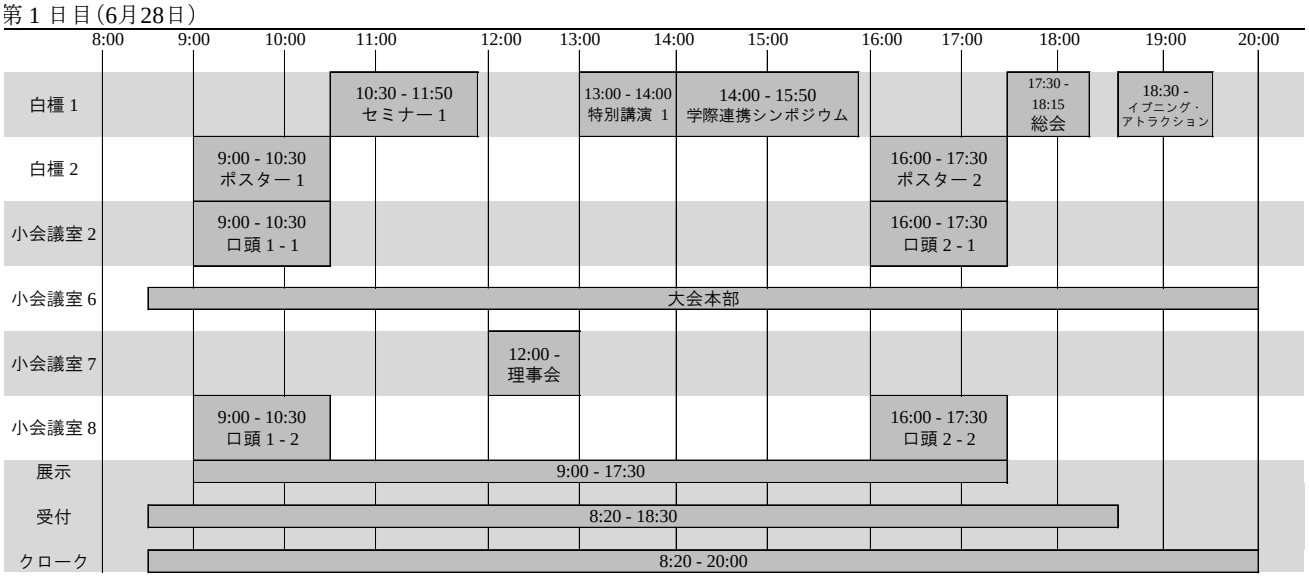
不楽是如何

日本認知心理学会第 12 回大会準備員会

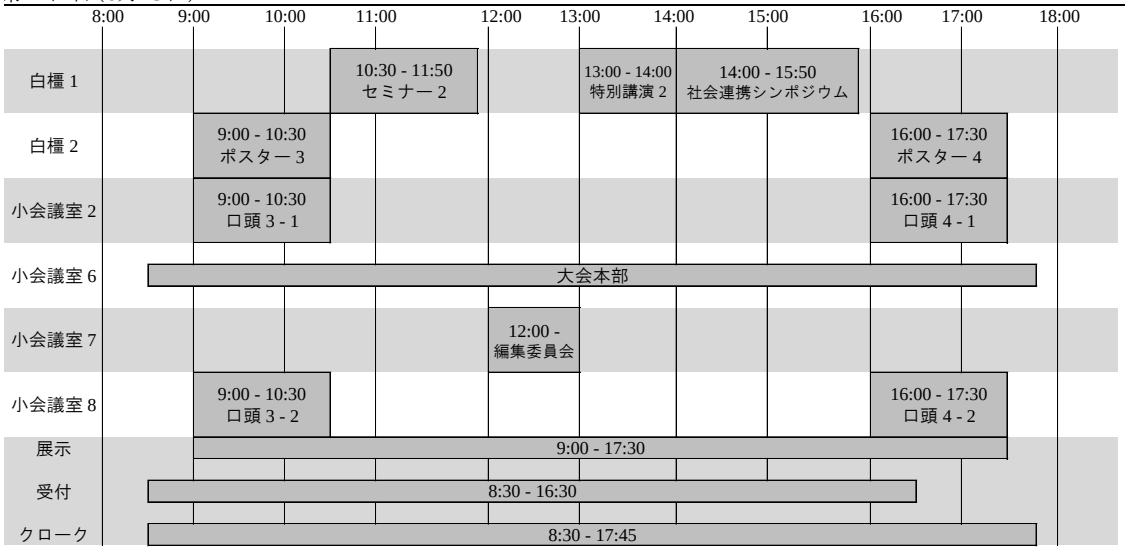
大会長　行場次朗

■タイムテーブル

第 1 日目（6月28日）



第 2 日目（6月29日）



昼食（お弁当販売のご案内）

仙台国際センター内にはレストランがあり，また近くの仙台市博物館内にもレストランがございます。ただ，会期中の土日は他のイベントがセンター内で開催されるため，混雑が予想されます。ランチマップもご用意しますが，会場からはやや遠くなります。そこで，会期中，3 階受付付近におきまして 11 時半から 12 時半の間で「伯養軒」によるお弁当販売を行います。お弁当はセンター内のどこでも食べることができますので，ぜひお弁当をご利用になられることをお勧めいたします。数に限りがございますので，お求めの方はお早目にご購入ください。なお，弁当販売上のトラブルにつきましては，「伯養軒」が担当・責任を負いますので，あらかじめご了承ください。

■会場アクセスマップ

仙台駅より

市営バス　約 10 分（180 円）

（仙台駅前西口バスプール 9 番乗り場より乗車，博物館・国際センター前下車）

タクシー　約 7 分

徒　歩　　約 30 分

仙台国際センター

〒980-0856　仙台市青葉区青葉山無番地

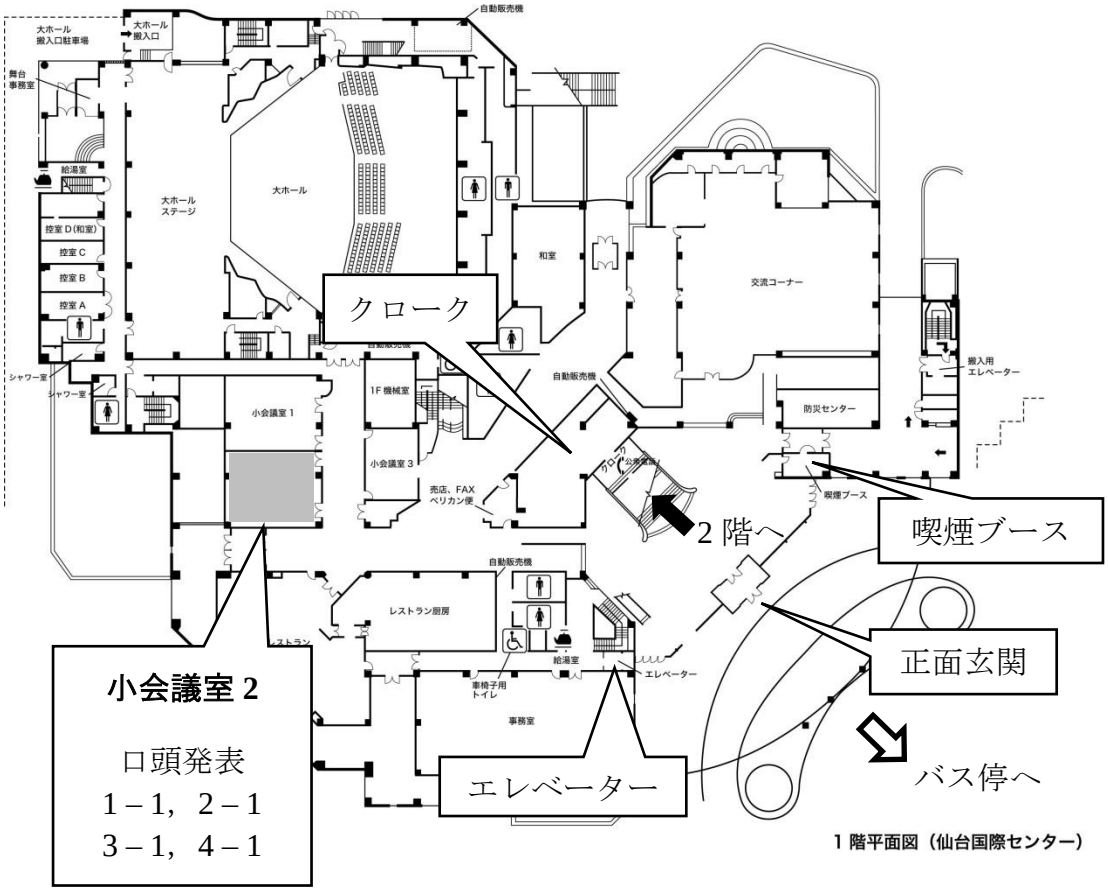
☎022-265-2450

http://www.sira.or.jp/icenter/index.html

■会場案内

1 階フロアマップ

1 階にはクロークと小会議室 2（口頭発表会場）があります。クロークの利用は，28 日は朝 8：20，29 日は朝 8：30 から可能です。

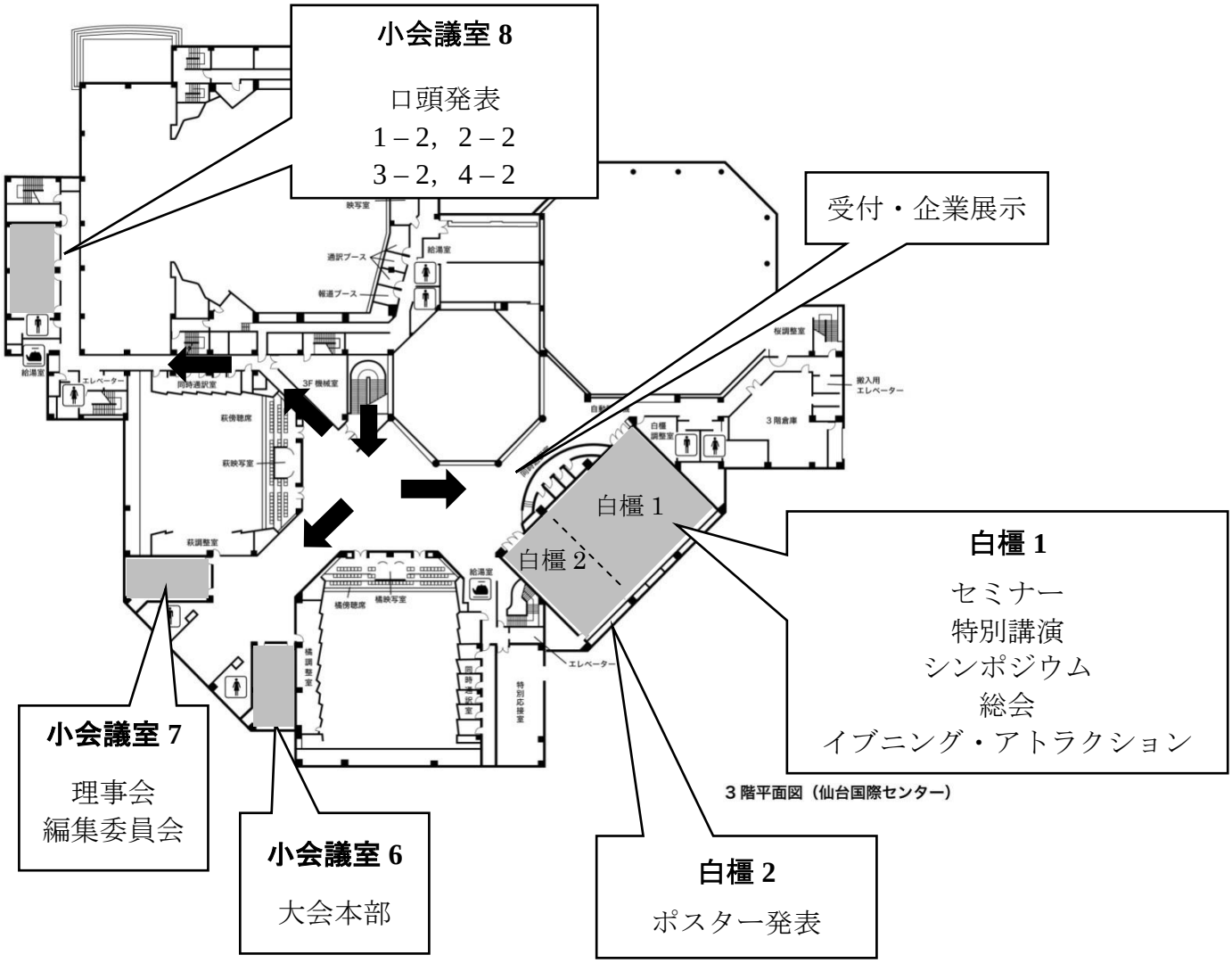


※受付は 3 階の白檀 2 の前です。2 階は会場として使用しません。

■会場案内

3 階フロアマップ

大会のメインとなるフロアです。受付は，白檮の前に設置いたします。受付開始の時間は，28 日は朝 8：20，29 日は朝 8：30 からになります。



■参加者へのご案内

（1）大会参加受付について

・受付場所は，白橿 2 入口付近（3 階）になります。受付時間は，以下の通りです。

28 日（土）8：20 — 18：30　　29 日（日）8：30 — 16：30

・予約申込の方は，参加証・領収書をお受け取りください。事前に論文集を予約された方には，論文集もお渡しいたします。

・当日申込の方は，ご所属とお名前を会場にて配布の用紙にご記入の上，受付にて参加費をお支払いください。参加証・領収書をお渡しします。ご希望の方には，論文集も販売いたします。数に限りがございますので，お早目にお求めください。

・会期中は，参加証を必ずお付け下さい。

（2）クロークについて

・クロークは 1 階にございます。ご利用可能時間は以下のとおりです。

28 日（土）8：20 — 20：00　　29 日（日）8：30 — 17：45

（3）休憩室について

・休憩室は特に準備しておりませんが，館内に休憩できる場所がございますので，ご利用ください。

（4）その他

・無線 LAN は，会場内であればどこでも無料でご利用になれます。SSID ならびにパスワードは受付にて配布するほか，会場にも掲示いたします。

■発表者へのご案内

（1）口頭発表について

・発表時間は，質疑応答 5 分を含めて 15 分以内でお願いします。

・発表会場では，プロジェクターとスピーカーを PC に接続して使用することができます。

・PC は各自でご用意ください。ただし，準備委員会でもそれぞれの会場に 1 台用意いたします。（OS: Windows7，PowerPoint 2010 インストール済）

・セッションが始まる前までに必ずプロジェクターとの接続確認を行ってください。

・補足資料の配布を希望される方は，各自でご用意いただき，発表前にご自身で配布をお願いします。事前の預かり及び大会事務局でのコピーは致しかねますのでご了承ください。

（2）ポスター発表について

・ポスターボードの大きさは，横 120 cm × 縦 180 cm です。

・ポスターの掲示に必要なピンは各ポスターボードのところにあります。

・当日のセッション開始までにはポスターを掲示して下さい。午前の発表者の方は，発表日の 8 時 30 分から掲示できます。午後の発表者の方は，13 時から掲示できます。発表が終わりましたら, 速やかにポスターをはがしていただきますよう, ご協力お願いいたします。在籍責任時間は，原則以下の通りとします。

ポスター1：奇数番号	9：00 — 9：45	偶数番号	9：45 — 10：30
ポスター2：奇数番号	16：00 — 16：45	偶数番号	16：45 — 17：30
ポスター3：奇数番号	9：00 — 9：45	偶数番号	9：45 — 10：30
ポスター4：奇数番号	16：00 — 16：45	偶数番号	16：45 — 17：30

（3）英語セッションでの発表について

・口頭（英語）発表では，ご自身の発表時間内は質疑応答まで含めて英語でお願いします。

・ポスター（英語）発表では，在籍責任時間内は質疑応答まで含めて英語でお願いします。

・発表者は，日本語で質問された場合にも，英語セッションとしての発表であることを質問者に理解していただいた上で，英語での受け答えをお願いします。

・質疑応答も含めて，国際賞の審査の対象となります。

（4）大会優秀発表賞について

・口頭発表，ポスター発表共に，大会優秀発表賞の対象になります。

■特別講演 1（Special Lecture 1）

第 1 日目：6 月 28 日　13：00 — 14：00
3 階　白檮 1
Shirakashi Conference Room 1

Memory: Problems for the law

講演者：Maryanne Garry（Victoria University of Wellington）
司　会：守　一雄（東京農工大学工学研究科先端健康科学部門）

講演概要

Many people think memory works like a digital camera, a misconception that causes problems for the law. In fact, both well-established and recent scientific research shows that memories are stories we tell ourselves and each other, a blend of reality and fiction that keeps us happy, bonds us together—and sometimes sendsinnocent people to prison. In this talk, I'll examine the causes and consequences of memory distortions, especially as they relate to the legal settings.

Education and professional careers

1993	Cognition and Instruction · PhD, University of Connecticut, Storrs, US
1992–1996	Postdoc, University of Washington · Psychology, Seattle, US
1996–	Professor, Victoria University of Wellington · School of Psychology, Wellington, New Zealand

Selected highly cited papers

French, L., Garry, M., & Mori, K. (2008). You say tomato? Collaborative remembering leads to more false memories for intimate couples than for strangers. *Memory*, *16* (3), 262-273.

Garry, M., & Wade, K. A. (2005). Actually, a picture is worth less than 45 words: Narratives produce more false memories than photographs do. *PsychonomicBulletin &Review*, *12* (2), 359-366.

Lindsay, D. S., Hagen, L., Read, J. D., Wade, K. A., & Garry, M. (2004). True photographs and false memories. *Psychological Science*, *15* (3), 149-154.

Wade, K. A., Garry, M., Read, J. D., & Lindsay, D. S. (2002). A picture is worth a thousand lies: Using false photographs to create false childhood memories. *Psychonomic Bulletin & Review*, *9* (3), 597-603.

Garry, M., & Polaschek, D. L. L. (2000). Imagination and memory. *Current Directions in Psychological Science*, *9* (1), 6-10.

Garry, M., Manning, C. G., Loftus, E. F., & Sherman, S. J. (1996). Imagination inflation: Imagining a childhood event inflates confidence that it occurred. *Psychonomic Bulletin & Review*, *3* (2), 208-214.

Loftus, E. F., Garry, M., & Feldman, J. (1994). Forgetting sexual trauma: What does it mean when 38% forget? *Journal of Consulting and Clinical Psychology*, *62* (6), 1177-1181.

■特別講演 2（Special Lecture 2）

第 2 日目：6 月 29 日　13：00―14：00

3 階　白檀 1

Shirakashi Conference Room 1

情動と認知の基盤としての内的感覚

講演者：福土　審（東北大学医学系研究科行動医学・東北大学病院心療内科）

司　会：行場次朗（東北大学文学研究科心理学）

講演概要

内的感覚は通常意識されないため，研究が進んでいなかった感覚である。しかし，一端それが意識され，感覚の強度が高く，慢性となると，臨床的に重要な問題となる。特に内臓感覚の異常は極めて頻度が高く，モデル疾患としての位置を占めるのが過敏性腸症候群（irritable bowel syndrome; IBS）である。消化管から脳への求心性信号による内臓痛覚過敏が IBS の主要病態である。脳機能画像法の陽電子断層撮影（PET），機能的磁気共鳴画像（fMRI）あるいは内臓知覚大脳誘発電位により，刺激下で賦活化される脳部位，対応する脳機能 module，神経伝達物質，情報処理パターンを明らかにできる。IBS に対する向精神薬や心理療法による病態の改善は，神経科学的な過程に基づく変化である。消化管から中枢に向かう内的感覚信号の病態生理の結果としての陰性情動と認知，中枢からの出力としての消化管運動の変化の全てについて解明が求められる。ここから，広く科学的に重要な知識を提供できると予想する。

論文・書籍・受賞など

①内臓感覚―脳と腸の不思議な関係―.NHK ブックス 2007.内臓感覚の一般向け書籍。書評で高評価を得る。

② Rome III. The Functional Gastrointestinal Disorders. Degnon Associates2006 国際的診断基準の委員+成書の分担執筆者となる。

③心身症の診断・治療ガイドライン作成とその実証的研究会作成協和企画 2006 ストレス病の診断治療ガイドラインをまとめる。

④文部科学大臣表彰科学技術賞（研究部門）文部科学省より受賞 2006 脳腸相関の研究に対して授与される。

⑤アメリカ心身医学会 Early Career Award アメリカ心身医学会より受賞 1994 心身相関の研究に対して授与される。年 1 人，米国外から初。

■学際連携シンポジウム（Symposium for Interdisciplinary Collaboration）

第 1 日目：6 月 28 日　14：00 ― 15：50

3 階　白檀 1

Shirakashi Conference Room 1

認知心理学者が学際領域で働くということ

企画・司会

秋元頼孝（理化学研究所脳科学総合研究センター）

心理学は多くの学際領域をもつ学問の一つです。臨床心理学分野にとっての精神医学領域は言うまでもありませんが，工学，社会学，教育学，法学，経済学 etc. 枚挙にいとまがありません。このような現状のもと，研究者の交流も盛んに行われるようになりました。とりわけ認知心理学分野は，他の心理学分野に比較して交流が盛んであると言えるでしょう。しかし，認知心理学をバックグラウンドにもつ研究者が，学際領域に職を得たり，共同研究をしたりする場合に，種々の葛藤に直面することは少なくありません。あるいは，特に若手研究者の中には，そのような葛藤を想像して，学際領域への接近を回避しようとすることも想像されます。

本シンポジウムでは，心理学の分野から学際領域に踏み出した研究者，あるいは，他の研究分野から心理学分野に関心を向ける研究者に話題提供をいただき，学際連携のあり方について探りたいと考えています。

話題提供

鹿志村香（（株）日立製作所デザイン本部）

「インハウスデザインの現場と心理学」

野内　類（東北大学災害科学国際研究所）

「学際連携のメリット・デメリット：日常認知研究の立場から」

細谷里香（滋賀大学教育学部）

「学際的研究を目指して：教育現場における情動研究」

坂本修一（東北大学電気通信研究所）

「人間にやさしい工学システムの実現に向けて」

■社会連携シンポジウム（Symposium for Social Collaboration）

第 2 日目：6 月 29 日　14：00 ― 15：50

3 階　白檀 1

Shirakashi Conference Room 1

次の大規模災害にどう備えるのか，何がまだ足りないのか

―クライシスマネジメントに関する実務家との対話―

企画・司会

大橋智樹（宮城学院女子大学）

我が国においては，首都直下地震や，東海地震，東南海地震など，多くの地震が高確率で発生すると予測されています。また，気候変動の影響で豪雨による土砂災害や，竜巻などの突風被害の発生も増えています。これらの自然災害の被害を最小限にするためには，実効性のある防災・減災対策が求められています。

一方で，東日本大震災からの復興においては，津波によって被災した地域では住民と行政の合意形成が，原子力災害に見舞われた地域では電力会社と住民，行政とのコミュニケーションが，困難な問題を生んでいます。

このような社会の現状に認知心理学はどのような連携していけばよいのでしょうか。本シンポジウムでは，企業，自治体，学問などの分野での取り組みについて話題提供いただき，社会連携のあり方について探りたいと考えています。

話題提供

渡部孝男（東北電力(株)常務取締役）

「企業の立場から：原子力災害にどう備えるか」

松平幸雄（宮城県総務部危機対策課危機対策企画専門監）

「行政の立場から：防災・危機管理へどう取り組むか」

奥村　誠（東北大学災害科学国際研究所副所長）

「災害科学からの立場から：被災地支援の有効性をどう高めるか」

指定討論

芳賀　繁（立教大学現代心理学部）

■セミナー1（Seminar 1）

第 1 日目：6 月 28 日 10：30 — 11：50

3 階　白檀 1

Shirakashi Conference Room 1

スモール&ビッグデータ

企画・司会

渡邊兼行（仙台白百合女子大学）

情報通信技術の進展は，以前は考えられなかったような多様かつ多量のデータを集積・処理する「ビッグデータ」の登場を促しました。このようなビッグデータの登場は心理学研究にも影響を与え始めており，心理学の研究方法に新たな可能性をもたらすものとして，その応用が期待されます。一方，心理学ではフィールドワークやインタビューなどで，少数の対象者から得られるデータをもとに研究を進めるアプローチも発展してきました。質的研究の手法はより洗練され，心理学研究においてこれまで以上になくてはならない地位を確立しています。

本セミナーでは，これら二つのアプローチから，心理学の研究方法における「データ」に焦点を当てます。主に教育をフィールドとして研究しておられる 2 名の先生を講師に迎え，「スモール&ビッグデータ」として対比させながら，心理学研究法についての新たな展開を探ります。

話題提供

寺澤孝文（岡山大学教育学研究科）

「縦断的ビッグデータで変わる心理学の研究法」

有元典文（横浜国立大学教育人間科学部）

「心理学という観察者効果」

■セミナー2（Seminar 2）

第 2 日目：6 月 29 日 10：30 ― 11：50

3 階　白檀 1

Shirakashi Conference Room 1

バーチャル&リアルワールド

企画・司会

大谷智子（東北大学電気通信研究所）

メディアを媒介とした人間の営みについては，認知心理学分野のみにとどまらず，工学や社会学などの分野からも研究が進められています。そこでのデータの収集方法は，フィールドワークから加速度センサーを用いた実証実験，コンピュータグラフィックを用いたシミュレーション実験など多様であり，目的に応じた手法が選択されています。

本セミナーでは，「メディア」をキーワードに，メディア論，知覚心理学，情報メディア工学を専門としている研究者を講師としてお迎えし，各分野の基本的な手法や，異分野との共同研究における研究手法をご紹介いただきます。さらに，「バーチャル&リアル」の双方の観点から，メディアの織りなすモノとコトの相互作用を対象とした研究について議論します。

話題提供

水越　伸（東京大学大学院情報学環）

「メディア論の立場から」

丸谷和史（NTT コミュニケーション科学基礎研究所）

「知覚心理学の立場から」

吉田成朗（東京大学大学院学際情報学府）

「インタラクション技術研究の立場から」

■イブニング・アトラクション（Evening Attraction）

第 1 日目：6 月 28 日 18：30 — 19：30

3 階　白檮 1

Shirakashi Conference Room 1

〇大会に参加される方は，どなたでもご自由にお楽しみください。

津軽三味線演奏会

出　演：津軽三味線　緑春会
司　会：柴田理瑛（東北福祉大学）

　迫力と味わいある津軽三味線・津軽民謡をお楽しみください。ご演奏は津軽三味線緑春会の皆様です。皆様お誘いあわせの上ご来場くださいますようご案内申し上げます。

略　歴
4 歳から平野流家元に師事（津軽三味線奏者 平野緑城）。
1980 年　全国赤十字大会にて津軽三味線演奏出演。
1986 年　親善使節団として台湾，シンガポール，中国にて公演。
2010 年　「玉蟲左太夫の世界」において津軽三味線音楽プロデュース。
2014 年　全日本金木津軽三味線全国大会にて団体の部優勝。

MAGIC と心理学　～ミスディレクションとは何か～

出　演：マジシャン SINYA（ジーンマジックプロダクション）
司　会：立花　良（東北大学）

　マジックショーを開催いたします。東北地方で活躍するプロマジシャン SINYA 氏をお招きし，マジックを披露していただきます。
また，マジックだけでなくミスディレクションのお話しもしていただきます。ミスディレクションはマジシャンが観客の注意を操作する技術であり, 注意研究でも話題となっていますので, 研究の視点からもお楽しみいただけます。

略　歴
1992 年　田村柳江氏に師事する。
1996 年　ステージマジシャンとしてプロデビュー。芸歴 18 年。
　クロースアップマジックからステージマジック, そしてイリュージョンまであらゆるマジックを得意とする希少なマジシャン。場を盛り上げる軽快なトークも熟練の技。TV，ラジオ等の各種メディアにも多数出演。企業のイベントやホテルでの結婚式, 宴会の依頼が多い。

研究発表

◆　社会連携発表（Presentation for Social Collaboratio）

E　英語発表（質問者の方も英語による質疑をお願いいたします）

口頭発表 1 – 1　　英語セッション（記憶，思考・言語）

Oral (English) session (Memory, Thinking & Language)

第 1 日目：6 月 28 日（June 28）9:00 – 10:30　　1 階　小会議室 2

Meeting Room 2

座長：Kwangoh YI・山　祐嗣

◆E　O 1 - 1 - 1　**Action-based memory is better than speech-based memory in recognition: A near-infrared spectroscopy study**

Victor Alberto PALACIOS, Hirofumi SAITO, Misato OI, Shuang MENG, Ryoma YAMADA, and Yukio ITSUKUSHIMA

◆E　O 1 - 1 - 2　**Kinematic components of experimentally induced slips of the pen**

Chiharu YAMADA, Yoshihiro ITAGUCHI, and Kazuyoshi FUKUZAWA

◆E　O 1 - 1 - 3　**What is a word in word recognition?**

Kwangoh YI

◆E　O 1 - 1 - 4　**Effects of harmonization between word meaning and voice quality of synthetic speech: An investigation using implicit/explicit memory tasks**

Kozue MIYASHIRO, Satsuki HIRAYAMA, and Etsuko T. HARADA

◆E　O 1 - 1 - 5　**The probability of conditional and the conditional bet: A cross-cultural study**

Hiroshi YAMA, Jean BARATGIN, Hiroko NAKAMURA, and David E. OVER

口頭発表 1 – 2　日本語セッション（社会認知）

Oral (Japanese) session (Social cognition)

第 1 日目：6 月 28 日（June 28）9:00 – 10:30　3 階　小会議室 8

Meeting Room 8

座長：朝倉暢彦・楠見　孝

O 1 - 2 - 1　**心の理論における階層性の処理に関する検討**

岩渕俊樹・乾　敏郎

◆　O 1 - 2- 2　**行動系列の観察による他者の意図推定 I ―迷路課題による検討―**

鈴木佐知歌・朝倉暢彦・乾　敏郎

O 1 - 2 - 3　**行動系列の観察による他者の意図推定 II**

―動的ベイジアンネットワークによる定式化―

朝倉暢彦・鈴木佐知歌・乾　敏郎

◆　O 1 - 2 - 4　**希少な物に対する魅力評価の時間的・社会的文脈依存性**

有賀敦紀・井上淳子

◆　O 1 - 2 - 5　**食中毒リスクに関する情報提供内容が知識と予防行動に及ぼす効果**

楠見　孝

口頭発表 2 – 1　英語セッション（社会的認知，感情・動機，発達・教育・学習）

Oral (English) session (Social cognition, Emotion & Motivation, Development, Education, & Learning)

第 1 日目：6 月 28 日（June 28）16:00 – 17:30　1 階　小会議室 2

Meeting Room 2

座長：上田祥行・石岡良子

◆E　O 2 - 1 - 1　**Prior disturbance increases activation in the right inferior frontal gyrus (IFG) during competition**

Tao LIU, Hirofumi SAITO, Misato OI, Shuang MENG, and Victor Alberto PALACIOS

◆E　O 2 - 1 - 2　**Observer's facial expressions affected perceived dominance**

Yoshiyuki UEDA, Kie NAGOYA, Sakiko YOSHIKAWA, and Michio NOMURA

◆E　O 2 - 1 - 3　**Successful experiences lead to more implicit transfer**
Kanji TANAKA and Katsumi WATANABE

◆E　O 2 - 1 - 4　**A selective impairment in extracting fearful information from another's eyes in ASD, probed using "Bubbles"**
Yongning SONG

E　O 2 - 1 - 5　**Relationships between false recognition and global cognitive abilities in older adults: Cross-sectional results from the SONIC study**
Yoshiko ISHIOKA, Yasuyuki GONDO, Yukie MASUI, Takeshi NAKAGAWA, Megumi TABUCHI, Hiroki INAGAKI, Kazunori IKEBE, Kei KAMIDE, Yasumichi ARAI, Tatsuro ISHIZAKI, and Ryutaro TAKAHASHI

口頭発表 2 – 2　日本語セッション（知覚・感性 1）
Oral (Japanese) session (Perception & Kansei 1)

第 1 日目：6 月 28 日（June 28）16:00 – 17:30　3 階　小会議室 8
Meeting Room 8
座長：永井聖剛・笹岡貴史

◆　O 2 - 2 - 1　**時間の共有感が仮想場面への没入感に及ぼす影響**
黒田怜佑・松田　憲・楠見　孝・辻　正二

◆　O 2 - 2 - 2　**単純接触効果における温熱環境の影響**
松田　憲・中元俊介・森岡広樹・樋山恭助・後藤伴延・小金井真・楠見　孝

◆　O 2 - 2 - 3　**大きな声で大きな動作―発生音圧と描画サイズとの適合性―**
永井聖剛・山田陽平・河原純一郎

◆　O 2 - 2 - 4　**視点取得機能に関わる脳内基盤の検討：fMRI 研究**
笹岡貴史・乾　敏郎

◆　O 2 - 2 - 5　**吃音者の発話制御メカニズムの特性：順応による研究**
飯村大智・朝倉暢彦・笹岡貴史・乾　敏郎

口頭発表 3 – 1　日本語セッション（注意）

Oral (Japanese) session (Attention)

第 2 日目：6 月 29 日（June 29）9:00 – 10:30　1 階　小会議室 2

Meeting Room 2

座長：原田悦子・河西哲子

◆　O 3 - 1 - 1　**先行運動の継続期間と変更準備期間の長さが運動変更に与える影響**
―運動変更時間の年齢差の検討―
勝原摩耶・井関龍太・上田彩子・熊田孝恒

◆　O 3 - 1 - 2　**力動性を伴うタスクマネジメント課題：新・朝食課題による検討**
原田悦子・大川貴巨

◆　O 3 - 1 - 3　**物体構造による注意誘導における性差**
河西哲子・田中　翔・山田優士

◆　O 3 - 1 - 4　**運動物体への生物性認知と選好に与える接近回避行動の影響**
興梠盛剛・松田　憲・楠見　孝

O 3 - 1 - 5　**物理的因果性判断における認知メカニズム**
三宅明日香・福田玄明・植田一博

口頭発表 3 – 2　日本語セッション（記憶，思考・言語）

Oral (Japanese) session (Memory, Thinking & Language)

第 1 日目：6 月 29 日（June 29）9:00 – 10:30　3 階　小会議室 8

Meeting Room 8

座長：服部雅史・北神慎司

O 3 - 2 - 1　**無意識的情報利用と意識的コントロール**
服部雅史・織田　涼

◆　O 3 -2 - 2　**休憩がアイデア生成に与える影響**
渡邊勝太郎・山田　歩・福島洋一・植田一博

◆　O 3 -2 - 3　**ディープラーニングと中間層の意味**
浅川伸一

◆　O 3 - 2 - 4　**形態類似性への敏感度とデジャビュ体験頻度**
杉森絵里子

O 3 - 2 - 5　**ギュッと手を握ると記憶が良くなる？**
―学習およびテスト前の hand-clenching がエピソード記憶に及ぼす影響―
北神慎司・石井香澄・高橋知世・阿見沙妃子

◆　O 3 - 2 - 6　**どこを見据えて学習するのか？―テストまでの時間的距離の認識と虚記憶―**
伊藤友一・池田賢司・小林正法・服部陽介・川口　潤

口頭発表 4 – 1　日本語セッション（発達・教育・学習）
Oral (Japanese) session (Development, Education, & Learning)

第 2 日目：6 月 29 日（June 29）16:00 – 17:30　1 階　小会議室 2
Meeting Room 2
座長：川崎真弘・外山紀子

◆　O 4 - 1 - 1　**シミュレーション説に基づく心の理論のモデル**
西尾直也・朝倉暢彦・乾　敏郎

◆　O 4 - 1 - 2　**運動模倣時における ASD 群と定型発達群の方略の違い**
川崎真弘・米田英嗣・村井俊哉・船曳康子

O 4 - 1 - 3　**心身相関的理解の現象依存性**
外山紀子

◆　O 4 - 1 - 4　**看護職による入院患者の死期の予見に関する研究**
―予見経験の有無についての調査研究―
山下雅子・前田樹海・北島泰子・辻　由紀

◆　O 4 - 1 - 5　**看護職による患者の死期の予見に関する研究―予見できる看護職の特性―**
前田樹海・山下雅子・北島泰子・辻　由紀

口頭発表 4 – 2　日本語セッション（知覚・感性 2）

Oral (Japanese) session (Perception & Kansei 2)

第 2 日目：6 月 29 日（June 29）16:00 – 17:30　3 階　小会議室 8

Meeting Room 8

座長：井手正和・小鷹研理

◆　O 4 - 2 - 1　**触覚刺激による視覚刺激の見えの抑制**

井手正和・日高聡太

◆　O 4 - 2 - 2　**視覚と運動のタイミングが幻肢の運動感覚へ及ぼす影響： 1 症例における検討**

今泉　修・浅井智久・金山範明・河村　満・小山慎一

◆　O 4 - 2 - 3　**手の身体モデルに基づいた道具のサイズに関する認知的判定**

―利き手と道具の種類の関係―

片山正純・木村優太

◆　O 4 - 2 - 4　**手の交差が自己接触錯覚誘起中のドリフトパターンに及ぼす効果**

小鷹研理・石原由貴

◆　O 4 - 2 - 5　**運動刺激における視覚、聴覚、触覚三感覚の感覚統合**

岡村友俊

ポスター発表 1　知覚・感性，社会的認知，発達・教育・学習，一般

Poster session (Perception & Kansei, Social cognition, Development, Education, & Learning, General topics)

第 1 日目：6 月 28 日（June 28）9:00 – 10:30　3 階　白橿 2

Shirakashi Conference Room 2

P 1 - 1　**絵画の美しさは時間知覚に影響するか ―時間再生法による検討―**

新井志帆子・川畑秀明

◆　P 1 - 2　**絵画の複雑性と評価の関係**

長潔容江・原口雅浩

◆　P 1 - 3　**流暢性による美的ユーザビリティ効果の説明**

高橋知世・北神慎司

P 1 - 4　**眼窩前頭皮質への経頭蓋直流電気刺激による美的印象評価の変容**
中村航洋・川畑秀明

P 1 - 5　**色彩情動反応における背景色の影響**
山本　偲・漁田武雄

◆　P 1 - 6　**色の典型性効果：認識しやすさの影響**
森田愛子

◆　P 1 - 7　**環境色彩が居住者の感情状態及び周辺住民の印象評価に与える影響**
―色彩施工から約 1 年経過後のフォローアップスタディー
蓑内絵梨・松原千春・森下洋子・海老原聡子・行場次朗

◆　P 1 - 8　**視覚シンボルの理解における奥行き表現の影響**
猪股健太郎・野村幸正

◆　P 1 - 9　**視線のカスケード現象の生起条件についての検討**
齊藤俊樹・大谷昌也・金城　光

◆　P 1 - 10　**前知覚的情動処理によるターゲット検出の促進効果**
竹島康博・行場次朗

◆　P 1 - 11　**楽器間の時間差がグルーヴを喚起する効果の心理物理学的検討**
松下戦具・野村真吾

P 1 - 12　**音声提示される有声・無声子音と動作強度の刺激反応適合性**
平田佐智子・山田陽平・中川　岳・永井聖剛

◆　P 1 - 13　**日本語母語者において形態優先傾向と音韻無視傾向は相関するか**
松井孝雄・水野りか

◆　P 1 - 14　**幼若期ストレスと内側前頭の活動及び意思決定スタイルとの関連**
中尾　敬・松本知也・森田真智子・清水大輔・吉村晋平・Georg NORTHOFF・
森信 繁・岡本泰昌・山脇成人

P 1 - 15　**道徳ジレンマ場面での道徳判断と生理的な否定感情の関係性**
相馬正史・都築誉史・千葉元気

P 1 - 16　“男性的な”男性顔に対する選好に関わる個人差要因の検討
—状態不安および家族との同居有無に着目して—
高橋　翠

◆　P 1 - 17　「笑ってごまかす」ことは可能か
向居　暁

◆　P 1 - 18　輸送障害の状況が鉄道利用者の取得したい情報と量に与える影響
菊地史倫・山内香奈

◆　P 1 - 19　洪水ハザードマップにおける避難方向指示表現に関する検討
北川悠一・西　悠之・田中孝治・堀　雅洋

◆　P 1 - 20　外的リスクが人工物利用の怖がりに及ぼす影響：高齢者-若年成人比較
田中伸之輔・長谷川莉子・原田悦子

◆　P 1 - 21　学習履歴のフィードバックによる保護者の意識変化
—学力低位の子どもをほめられる新たな学習情報—
山下加奈恵・土師大和・永井達弥・寺澤孝文

◆　P1 - 22　学習環境の選択に及ぼす物理的要因の明確化の効果
市村賢士郎・井上裕昭・太田裕通・岡隆之介・楠見　孝

◆　P 1 - 23　幼児における描画構成と認知的要因の因果性に関する研究
進藤将敏

◆　P 1 - 24　自閉症スペクトラム障害者の記憶保持を妨害する学習過程の探索的検討
堀田千絵・十一元三

◆　P 1 - 25　ニュース番組の出演者の関心指向性に対する認知特性
小島隆次・奥内啓太・角所　考

◆　P 1 - 26　想定外事象に対する人間の対処行動測定の試み
大橋智樹・松井裕子・高橋　信

◆　P 1 - 27　価値観再考の契機が家庭防災行動意図に与える影響
田中孝治・園田一貴・小川泰右・堀　雅洋・池田　満

◆　P 1 - 28　**ライフログ収集ツールの使いやすさ　：長期間の利用から**
高橋秀明

ポスター発表 2　記憶，思考・言語
Poster session (Memory, Thinking & Language)

第 1 日目：6 月 28 日（June 28）16:00 – 17:30　3 階　白橿 2
Shirakashi Conference Room 2

P 2 - 1　**BGM 文脈手がかり強度におよぼす楽曲の熟知性の効果**
漁田武雄・陳　暁蕾・漁田俊子

◆　P 2 - 2　**記銘材料の有意味性が BGM 文脈依存再認に及ぼす効果**
馬　微・漁田俊子・漁田武雄

◆　P 2 - 3　**実験参加者間で操作したビデオ文脈依存効果**
森井康幸・三島慧子・漁田俊子・漁田武雄

◆　P 2 - 4　**項目対とビデオ文脈の意味的関連性が対連合学習におよぼす効果**
久保田貴之・平野由紀子・漁田俊子・漁田武雄

◆　P 2 - 5　**偶発的背景刺激を利用した対連合学習促進法**
尹　艶楠・漁田俊子・漁田武雄

P2 - 6　**検索誘導性忘却の持続性**
吉井英理子・漁田武雄

P 2 - 7　**思考抑制が性格特性語リストの虚記憶に及ぼす影響**
佐藤浩一・小池仁美

P 2 - 8　**顔刺激における指示忘却効果(3) —喜び顔と真顔との比較—**
伊藤美加

◆　P 2 - 9　**行動制御能力と指示忘却の関連性**
本間喜子・川口　潤

P 2 - 10　**中心・偶発学習パラダイムと指示忘却を用いた虚再認の検討**
中山友則

P 2 - 11　**顔の情動情報が統計学習に及ぼす影響**
大塚幸生・東　亮太・齋木　潤

◆　P 2 - 12　**忘れないためには「なぜか」を考えよう —解釈レベルと検索誘導性忘却—**
小林正法・池田賢司・服部陽介

◆　P 2 - 13　**個人的・社会的ノスタルジアが向社会的行動に与える影響**
仙田　恵・青島由樹・中村紘子・川口　潤

◆　P 2 - 14　**懐かしさが認知的作業に与える影響**
林美都子

◆　P 2 - 15　**購買満足と自伝的記憶との関連**
—若齢者と高齢者への質問紙調査による検討—
秋山　学・清水寛之

◆　P 2 - 16　**自伝的記憶の語り直しの信念と“しあわせ感”の認識の関連性**
池田和浩・佐藤　拓・荒木　剛・菊地史倫

◆　P 2 - 17　**成人期における日常記憶の自己評価に関する発達的変化**
—日常記憶質問紙（EMQ）による検討—
清水寛之・金城　光

◆　P 2 - 18　**日本語の動詞形態素処理におけるプライミング効果**
菅谷奈津恵

◆　P 2 - 19　**自我消耗と適応による多属性意思決定における文脈効果への影響**
千葉元気・都築誉史・相馬正史

P 2 - 20　**主要な概念カテゴリーを修飾する形容詞の感性特性**
海老原聡子・行場次朗

◆　P 2 - 21　**名詞と助数詞の照合処理過程に関する事象関連電位を用いた検討**
宇野智己・奥村安寿子・河西哲子

P 2 - 22　**視覚情報もしくは触覚情報からことばを喚起する過程の検討**
中嶋友紀・大友康輝・柴田　寛

◆　P 2 - 23　**瞳孔反応を指標とした日本語文理解時の処理負荷の測定**
新国佳祐・安永大地

◆　P 2 - 24　**五七調音声と非五七調音声聴取時における脳活動の比較**
―日本語が第二言語話者の場合―
福田由紀

◆　P 2 - 25　**発話産出におけるポライトネスの神経基盤**
秋元頼孝・杉浦元亮・鈴木瑞恵・野澤孝之・塙　杉子・宮澤志保・川島隆太

◆　P 2 - 26　**ジョークの面白さに繰り返し-崩壊構造が与える影響**
岡隆之介・楠見　孝

◆　P 2 - 27　**運動行為が認知処理に与える影響：空書と漢字構成課題**
板口典弘・山田千晴

◆　P 2 - 28　**私たちは、どのように折り紙を折っているのか？（７）**
―折り図作成プロセスの検討―
丸山真名美

◆　P 2 - 29　**数表象空間の 3 次元性と男女差**
板垣文彦・D. J. TURK

P 2 - 30　**外的刺激がもたらすマインドワンダリングのメタ覚知**
―外的刺激による注意の焦点化への妨害からの検討―
大塚　翔

ポスター発表 3　知覚・感性，感情・動機
Poster session (Perception & Kansei, Emotion & Motivation)

第 2 日目：6 月 29 日（June 29）9:00 – 10:30　3 階　白橿 2
Shirakashi Conference Room 2

◆　P 3 - 1　**手の身体近傍空間の加齢変化**
寺本　渉・角谷友朗・積山　薫

◆　P 3 - 2　**自分の手の向きが stream/bounce 知覚を変容する**
齋藤五大・行場次朗

◆ P 3 - 3 **両手による幅の判断に触覚パタンが与える効果**
光藤宏行

P 3 - 4 **左右識別困難と認知スタイルの関係**
杉島一郎・松田瀬菜

◆ P 3 - 5 **上下回転した未知人物顔の同定**
平賀茉莉・安田　孝・髙木幸子・田中章浩

◆ P 3 - 6 **空間的に広がりのあるオブジェクトを用いた目標—自己相対位置判断課題における上下関係の影響**
上田彩子・井関龍太・蔦森英史・勝原摩耶・熊田孝恒

◆ P 3 - 7 **恐怖刺激と周辺情報の処理における個人差**
小代裕子

◆ P 3 - 8 **触覚による選好判断時のサンプリング動作**
吉岡雄一・満田　隆

◆ P 3 - 9 **嫌いな画像の選択に親近性と新奇性が及ぼす影響**
満田　隆・阪口遼平

◆ P 3 - 10 **形の知覚における色と傾きの特徴が持つ注意負荷の違い**
—二重高速逐次視覚提示課題を用いた検討—
柴田芽衣子・日高聡太

◆ P 3- 11 **視覚探索課題におけるリベレーション効果**
三浦大志・伊東裕司

◆ P 3 - 12 **顔の表情と形態が魅力に及ぼす効果**
新村知里・草野　萌・田中章浩

P 3 - 13 **顔の順応効果に対する単純接触効果の影響**
遠藤光男

◆ P 3 - 14 **味覚と視覚の感覚統合に影響する個人特性の検討**
岸本優里・有本早織・米本幸代・高岡素子・矢野円郁

P 3 - 15　**色が味覚判断に及ぼす影響—味覚順応法を用いた検討—**
日高聡太・下田和優

◆　P 3 - 16　**聴覚刺激は視覚的時間知覚を伸長・短縮させる**
朝岡　陸・行場次朗

P 3 - 17　**視覚的身体像が痛みに与える影響 —ラバーハンド錯覚を用いて—**
大住倫弘・今井亮太・森岡　周

P 3 - 18　**バイオロジカルモーションの動作一致によるクラウディングへの影響**
池田華子・渡邊克巳

◆　P 3 - 19　**デザイン要素の類似性が評価に及ぼす影響**
向井志緒子

◆　P 3 - 20　**主観年齢推定における自己若年視要因の検討**
：社会心理的要因に関する考察
北岡勇紀・片平建史・長田典子

◆　P 3 - 21　**VR 空間での臨(隣)人感にパートナーの動き情報が与える影響**
鈴木直弥・寺本　渉・浅井暢子

P 3 - 22　**実行機能質問紙を用いた実行機能の個人差の検討**
—Navon 課題遂行成績・パーソナリティ特性との関連—
関口理久子・山田尚子

P 3 - 23　**IAPS を用いた情動喚起刺激の感情価と覚醒度の評定**
—2 種類の評定項目による検討—
加藤みずき

◆　P 3 - 24　**ピアノ演奏課題における興味価値とフロー体験の関連性**
中川小耶加・三宅祐美・風井浩志・片平建史・長田典子

◆　P 3 - 25　**人工物利用に対する「怖がり」特性**
栗延　孟・藤原健志・田中伸之輔・須藤　智・原田悦子

◆　P 3 - 26　**他者の人数割合と絶対数が選好判断に及ぼす影響**
布井雅人・吉川左紀子

◆　P 3 - 27　**高次感情の概念と表出および知覚の関連性の検討**
髙木幸子・宮澤史穂・田中章浩

◆　P 3 - 28　**無意識的な感情処理は空間と感情の概念的連合を活性化させるか？**
佐々木恭志郎・山田祐樹・三浦佳世

◆　P 3 - 29　**法と空間心理学 ―法廷配置と利き手が生み出す量刑判断バイアス―**
山田祐樹・佐々木恭志郎・三浦佳世

ポスター発表 4　記憶，注意，人格・臨床

Poster session (Memory, Attention, Personality & Clinic)

第 2 日目：6 月 29 日（June 29）16:00 – 17:30　　3 階　白橿 2

Shirakashi Conference Room 2

◆E　P 4 - 1　**Relationship between spatial working memory ability and the distortion of cognitive distance from memorized maps**
Oto Hironori

◆　P 4 - 2　**ワーキングメモリにおける背景色文脈と加齢の影響**
酒井徹也・須藤　智

P 4 - 3　**不随意記憶の生起頻度とワーキングメモリ**
神谷俊次

◆　P 4 - 4　**再認判断と確信度評定を同時に行った場合での確信度と正確さの関係**
日隈美代子・漁田武雄

◆　P 4 - 5　**学習容易性判断における客観的・主観的な内在手がかり利用の検討**
山根嵩史・中條和光

P 4 - 6　**情報源制限検索が再認の新項目の符号化に及ぼす影響Ⅴ**
―符号化時，検索時ともに行為の実演を行うことによる検討―
長　大介・藤田哲也

◆ P 4 - 7 情報源制限検索が再認の新項目の符号化に及ぼす影響 VI
—検索時のみに行為の実演をすることによる検討—
藤田哲也・長　大介

P 4 - 8 心的回転課題における身体化認知の効果 —粗大協応運動能力との関連—
蒔苗詩歌・山崎圭子・河西哲子

P 4 - 9 親近感の空間的誤帰属と抑制コントロール
丹藤克也・木村ゆみ

P 4 - 10 系列的問題解決によって形成される概形記憶
：手がかりの効果に関する年齢群間比較
大門貴之・原田悦子・須藤　智

◆ P 4 - 11 記憶は“捨てる”ことができるか？
山田陽平・仲嶺　真・平田佐智子・永井聖剛

P 4 - 12 日常場面における想起・思考の方向づけ機能の規定因
森田泰介・金野和弘

◆ P 4 - 13 有名人に関する TOT 現象と TOT 解消方略
—人名を求める質問紙調査の分析から—
長谷川千洋・清水寛之

P 4 - 14 展望的記憶の３表象モデルに関する実験的検討（３）
—意図存在表象と時機表象の連合強度が展望的記憶の検索に与える影響—
花村光貴・厳島行雄

◆ P 4 - 15 オブジェクトの規則性が符号化に及ぼす影響
西山めぐみ・大塚幸生・齋木　潤

◆ P 4 - 16 物体の表面質感の記憶は照明の変化にどう影響されるか
津田裕之・斎木　潤

◆ P 4 - 17 自動車速度の推定にアンカーとの比較や質問の語法が及ぼす影響
松野隆則・山本理恵子

P 4 - 18 Baker-baker パラドックスの不成立について ：顔と名前の記憶(2)
上田卓司・安田　孝・椎名乾平

P 4 - 19　**文字列中の個々の文字に対する空間定位過程の検討**
田中愛子・奥村安寿子・河西哲子

◆　P 4 - 20　**完全に課題非関連な顔は知覚負荷に関係なく注意捕捉する**
佐藤史織・河原純一郎

◆　P 4 - 21　**一致試行出現確率の異なる刺激がサイモン効果に及ぼす影響**
蔵冨　恵・加藤公子・吉崎一人

◆　P 4 - 22　**どのような手品が視覚的注意をより誘導するか**
立花　良・行場次朗

◆　P 4 - 23　**道具による把持行為の観察は長い遅延で観察者の視覚的注意を調整する**
望月正哉・玉木賢太郎・内藤佳津雄

P 4 - 24　**連続的遂行課題時の行動制御 ―反応解除ではなく目標解放が遅延する―**
井関龍太・勝原摩耶・上田彩子・熊田孝恒

P 4 - 25　**新ストループ検査反復時の干渉率と課題別の学習効果との関係**
景山　望・光藤宏行

◆　P 4 - 26　**フランカー課題による価値駆動的な注意メカニズムの検討**
峯　知里・杉尾武志

◆　P 4 - 27　**抑うつ傾向が自己顔への注意バイアスに与える影響**
大塚芽以子・川口　潤

◆　P 4 - 28　**自伝的記憶の具体性の減少とマインドワンダリングとの関連**
松本　昇・菅原大地・望月　聡

日本認知心理学会第 12 回大会

賛助団体御芳名

＜後援＞

東北大学災害科学国際研究所

＜協賛・助成＞

仙台観光コンベンション協会

＜展示・広告・HP バナー＞

クレアクト・インターナショナル	（展示）
ナモト貿易	（展示・広告・HP バナー）
北大路書房	（広告・展示）
トーヨーフィジカル	（広告）
サン・エデュケーショナル	（広告）
フィジオテック	（展示）
郷土料理　心平	（HP バナー）
仙台共同印刷	（広告）
有斐閣	（広告）
福村出版	（展示）

日本認知心理学会第 12 回大会準備委員会
東北大学文学部　心理学研究室内
〒980-8576
宮城県仙台市青葉区川内 27-1
TEL.: 022-795-6048
FAX.: 022-795-3703
E-mail: cogpsy2014@ml.tohoku.ac.jp